

「かながわ高齢者保健福祉計画」(第7期:2018~2020年度)主要施策評価(自己評価・施策別評価・総合評価)

〈大柱〉	〈中柱〉	〈小柱〉 主要施策	事業 本数	自己評価(平成30年度)					施策別評価				総合評価	
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D		
I 安心して元気に暮らせる社会づくり	1 地域包括ケアシステムの深化・推進	〈1〉地域包括支援センターの機能強化	4		4						○			<p>■ 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた施策は一部の事業でやや進捗が遅れたものの、おおむね順調に進捗した。引き続き地域の関係者が連携して高齢者を支える仕組みづくりに向けて市町村の取組を支援していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターの機能強化では、地域ケア会議の開催数が計画を下回ったが、これは一部の市町村において地域ケア会議の役割や機能を精査し、開催回数や計上方法を見直したためである。今後は回数のみならず、「介護予防のための地域ケア個別会議」など、地域ケア会議の内容の充実に向けた支援を行うことが求められる。</li> <li>医療と介護の連携の強化では、市町村における在宅医療・介護連携推進事業は猶予期間が終了し、平成30年度から全市町村全項目の実施が義務化された。県は入退院調整ルールの策定など、広域的な対応や専門的・技術的な対応が必要な事項について、保健福祉事務所単位等の市町村支援を引き続き進めていく必要がある。</li> <li>地域での支え合いの推進では、家族介護の支援などの取組は市町村事業として概ね順調に行われている。総合事業における多様なサービスや住民主体の通いの場など、地域での支え合いは今後も期待される所であり、介護予防のみならず、まちづくり、コミュニティ再生の視点を持って取り組むことが求められる。</li> <li>NPO・ボランティア等との協働では、高齢者の多様な社会参加の場として、また総合事業の多様な生活支援サービスの担い手として、NPOやボランティアの役割は重要であり、引き続き活動環境の整備に取り組む必要がある。</li> </ul>
		〈2〉医療と介護の連携の強化	18	4	13	1					○			
		〈3〉地域での支え合いの推進	15	7	7	1					○			
		〈4〉NPO・ボランティア等との協働	4	2	1	1					○			
		中柱計	41	13	25	3	0	0	0	4	0	0		
	2 高齢者の尊厳を支える取組みの推進	〈1〉高齢者虐待防止対策の推進	6	5	1						○			
		〈2〉権利擁護のしくみの充実	7	4	3						○			
		中柱計	13	9	4	0	0	0	0	2	0	0		

〈大 柱〉	〈中 柱〉	〈小 柱〉 主要施策	事業 本数	自己評価(平成30年度)					施策別評価				総合評価		
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D			
I 安心して 元気に暮 らせる社会 づくり	3 認知症の 人にやさしい 地域づくり	〈1〉認知症への理解を深めるための普及啓発の推進	3	3						○				<p>■ 認知症への理解を深めるための普及啓発など、県の取組は順調に進捗した。令和元年6月に国が「認知症施策推進大綱」を決定したところであり、引き続き認知症の人や家族の視点を重視しながら施策を推進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症への理解を深めるための普及啓発の推進では、認知症サポーターやキャラバン・メイト、オレンジパートナー養成研修は順調に進捗した。引き続き各種普及啓発を推進する必要がある。</li> <li>容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供では、平成30年4月時点で県内全市町村に初期集中支援チームと認知症地域支援推進員が配置された。引き続き認知症サポート医の養成や、好事例の紹介などを通じて活動を支援する必要がある。</li> <li>若年性認知症施策の強化では、平成30年度に若年性認知症支援コーディネーターを1名追加で配置し、3名体制となった。引き続き関係機関と連携し、自立支援のネットワークを構築していく必要がある。</li> <li>認知症の人の介護者への支援では、市町村では認知症カフェ等の取組が実施され、認知症コールセンターの相談も定着してくるなど、順調に進捗した。引き続き認知症に対応した介護保険サービスの提供や相談体制の充実などに取り組む必要がある。</li> <li>認知症の人を見守る取組の推進では、認知症等行方不明SOSネットワークなどによる地域での見守り体制の整備は概ね順調に進捗した。引き続き認知症の人が安全に外出できる地域の見守り体制づくりを進める必要がある。</li> </ul>	
		〈2〉容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供	8	3	5						○				
		〈3〉若年性認知症施策の強化	1		1							○			
		〈4〉認知症の人の介護者への支援	3	2	1						○				
		〈5〉認知症の人を見守る取組の推進	5	2	3							○			
		中柱計	20	10	10	0	0	0	2	3	0	0			
	4 安全・安 心な地域づく り	〈1〉地域における見守り体制の充実	7	2	5						○				<p>■ 地域における見守り体制や多様な住まいの確保、事故や犯罪被害の防止に向けた取組はおおむね順調に進捗した。引き続き高齢者が安心して暮らせるまちづくりを推進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域における見守り体制の充実では、地域見守り活動で課題の情報共有や今後の活動の充実につなげるため、平成30年度に初めて市町村や協定締結事業者との連絡会を実施した。引き続き、多様な主体が様々な機会を捉えて見守り活動を展開できるよう支援していく必要がある。</li> <li>バリアフリーの街づくりの推進では、「みんなのバリアフリー街づくり条例」の普及に向けた取組や鉄道駅舎へのエレベーター等の設置補助はおおむね順調に進捗した。高齢者や障がい者などが安心して生活し、自由に移動し、社会参加できるまちづくりを推進していくことが求められる。</li> <li>多様な住まいの確保では、多様な住まいについての情報提供や居住支援の取組は順調に進捗した。引き続き「新たな住宅セーフティネット制度」による、高齢者等の住宅確保要配慮者の入居を拒まない住宅の登録を促進するなど、多様な住まいの普及を推進していく必要がある。</li> </ul>
		〈2〉バリアフリーの街づくりの推進	9	3	4	2						○			
		〈3〉多様な住まいの確保	8	6	2						○				
		〈4〉魅力的なまちづくり	2	1	1							○			

＜大 柱＞	＜中 柱＞	＜小 柱＞ 主要施策	事業 本数	自己評価（平成30年度）					施策別評価				総合評価
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D	
I 安心して 元気に暮 らせる社会 づくり	4 安全・安 心な地域づく り	＜5＞事故や犯罪被害などの 防止	11	2	7	2				○			<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力的なまちづくりでは、「健康団地」の取組など、おおむね順調に進捗した。健康団地における入居者主体の活動を継続的に支援するため、市町や関係団体等と意見交換するなど、連携した取組を進めていく必要がある。</li> <li>事故や犯罪被害などの防止では、警察による様々な防犯対策も実施されたが、特殊詐欺の認知件数は増加傾向を示しており、引き続き対策を推進する必要がある。</li> <li>災害時の要配慮者への支援では、各市町村における避難行動要支援者名簿の活用や個別計画の策定等が不十分であることから、引き続き情報交換の場を設定するなど、市町村の取組を促進するため取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
		＜6＞災害時の要配慮者への 支援の推進	5	1	3	1				○			
		中柱計	42	15	22	5	0	0	1	5	0	0	
	大柱計	116	47	61	8	0	0	3	14	0	0		
II いきい きと暮らす しくみづく り	1 介護予防 と健康づくり の推進	＜1＞地域の多様な主体による 介護予防の推進	8	4	2	2				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護予防や健康寿命の延伸に向けた未病改善の取組はおおむね順調に進捗した。法改正による高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に向けて、庁内で連携して市町村を支援していく必要がある。</li> <li>地域の多様な主体による介護予防の推進では、コグニサイズの普及定着に向けた取組などが順調に進捗した一方で、介護予防従事者研修の修了者数は計画値を下回った。引き続き人材養成や情報提供などにより、市町村の介護予防の取組を支援していく必要がある。</li> <li>健康寿命の延伸に向けた未病改善等の取組では、フレイル対策やオーラルフレイル、認知症未病改善などの取組はおおむね順調に進捗した。令和2年度から高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施が可能となることから、後期高齢者医療保険や健康づくり所管課との一層の連携が求められる。</li> <li>社会参画の推進においては、人生100歳時代の設計図の取組や就業支援などの取組がおおむね順調に進捗した。高齢者が地域共生社会の担い手として活躍できるよう支援していく必要がある。</li> <li>地域共生社会の実現に向けた活動への支援では、人生100歳時代の設計図の取組や老人クラブ活動の支援がおおむね順調に進捗した。地域共生社会の実現に向けて、高齢者もコミュニティの担い手としてその経験、知識、意欲を生かして活躍していくことが求められており、引き続き市町村やボランティアセンター等への支援を行い、高齢者を含めたさまざまな世代が担い手となる取組を推進する必要がある。</li> <li>就業に対する支援では、各種取組は順調に推移した。働き続ける意欲を持った高齢者の多様な就業ニーズに応えられるよう、キャリアカウンセリングなどに引き続き取り組む必要がある。</li> </ul>	
		＜2＞健康寿命の延伸に向 けた未病改善等の取組	27	15	10	1		1		○			
		中柱計	35	19	12	3	0	1	0	2	0		0
	2 社会参画 の推進	＜1＞地域共生社会の実現 に向けた活動への支援	11	3	7	1				○			
		＜2＞就業に対する支援	3	2	1					○			
		中柱計	14	5	8	1	0	0	1	1	0		0

〈大柱〉	〈中柱〉	〈小柱〉 主要施策	事業 本数	自己評価(平成30年度)					施策別評価				総合評価
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D	
Ⅱ いきいきと暮らすしくみづくり	3 生涯学習・生涯スポーツの推進	〈1〉生涯学習・生涯スポーツへの支援	9	2	7					○			<p>■ 生涯学習・生涯スポーツの推進に向けた各種取組はおおむね順調に進捗した。高齢者が健康で生きがいのある生活を続けられるよう、引き続き多様なニーズに対応した支援を進めていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習・生涯スポーツへの支援では、本県開催の2021年度全国健康福祉祭(ねんりんピックかながわ2021)に向け、より一層高齢者がスポーツ等に親しむことができる機会や場を提供し、高齢者スポーツの機運醸成を図っていく必要がある。</li> <li>活動・交流の場の提供では、学校開放が県立学校全体の約9割で施設開放が実施された。高齢者を含めた地域住民にとって、重要な「場」の資源であり、今後も各校に対して積極的な開放を働きかけていく必要がある。</li> </ul>
		〈2〉活動・交流の場の提供	2		2					○			
		中柱計	11	2	9	0	0	0	0	2	0	0	
	大柱計	60	26	29	4	0	1	1	5	0	0		
Ⅲ 介護保険サービス等の適切な提供とその基盤づくり	1 介護保険サービス等の適切な提供	〈1〉介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営	6	4	2					○			<p>■ 介護保険サービス等の適切な提供に向けた取組はおおむね順調に進捗した。引き続き安心して介護保険サービス等を利用できるしくみの充実を図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営については、介護給付費負担金の交付などは適切に行われた。介護給付の適正化は、利用者に対して適切な介護サービスの提供を確保しつつ、介護保険料の上昇を抑制し、持続可能な介護保険制度の構築に資するものであり、介護保険事業支援計画の計画的な推進と併せ、こちらも推進していく必要がある。</li> <li>安心して介護保険サービス等を利用できるしくみの充実では、概ね順調に実施されたものの、認知症グループホーム外部評価調査員研修の一部が実施できなかった。安心して介護保険サービスを利用できるよう、計画的な開催に努めるとともに、引き続きサービス情報の公表や低所得者対策等の取組も推進していく必要がある。</li> </ul>
		〈2〉安心して介護保険サービス等を利用できるしくみの充実	12	5	5	1	1			○			
		中柱計	18	9	7	1	1	0	1	1	0	0	

＜大 柱＞	＜中 柱＞	＜小 柱＞ 主要施策	事業 本数	自己評価（平成30年度）					施策別評価				総合評価
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D	
Ⅲ 介護保 険サービス 等の適切な 提供とその 基盤づくり	2 人材の養 成、確保と資 質の向上	＜1＞保健・医療・福祉の 人材の養成	11	4	7					○			<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人材の確保と資質の向上に向けた各種取組はおおむね順調に進捗した。高齢化の進展に伴う介護人材等の需要増への対応は喫緊の課題であり、国や関係団体等とも連携し、各取組を更に推進する必要がある。</li> <li>・ 保健・医療・福祉の各領域の人材養成については、おおむね順調に進捗している。介護人材等の養成、確保は喫緊の課題であり、人材のすそ野拡大を進め、多様な人材層を対象に、引き続き着実に人材養成を進めていく必要がある。</li> <li>・ 保健・医療・福祉の人材の確保・定着対策の充実については、おおむね順調に進捗している。介護職員の負担軽減としての介護ロボットの普及について、見学会の他、事業者向けの助成事業も実施しており、今後も普及に向けて引き続き取り組む必要がある。</li> <li>・ 保健・医療・福祉の人材の資質の向上については、研修を計画通り実施したものの、受講者数は計画を下回った。段階に応じた研修はキャリア形成と人材定着対策にもつながるため、職員が研修受講できるよう、各施設等への働きかけも進めていく必要がある。</li> </ul>
		＜2＞保健・医療・福祉の 人材の確保・定着対策の 充実	27	6	15	6				○			
		＜3＞保健・医療・福祉の 人材の資質の向上	13	1	7	4	1				○		
		中柱計	51	11	29	10	1	0	0	2	1	0	
	3 サービス 提供基盤の整 備	＜1＞介護保険施設等の整 備	9	4	5					○			<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービス提供基盤の整備はおおむね順調に進捗した。引き続き必要な量の確保に努めるとともに、質の向上に向けた取組も進める必要がある。</li> <li>・ 施設整備については、おおむね計画どおりに進捗している。施設整備の取組と併せて、地域密着型サービスや、在宅生活を継続するためのサービスの充実などの取組も引き続き進めていくことが必要である。</li> <li>・ 施設におけるサービスの質の向上では、ユニット型の整備や質の高いサービス事業所の認証・表彰の取組はおおむね順調に進捗した。福祉サービス第三者評価に加え、質の高いサービス事業所の認証・表彰により、事業者が自発的にサービスの質の向上に取り組むよう促していくことも重要である。</li> </ul>
		＜2＞施設におけるサービ スの質の向上	10	5	4		1			○			
		中柱計	19	9	9	0	1	0	0	2	0	0	
	大柱計		88	29	45	11	3	0	1	5	1	0	



〈大 柱〉	〈中 柱〉	〈小 柱〉 主要施策	事業 本数	自己評価(平成30年度)					施策別評価				総合評価	
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D		
IV 市町村 が行う取組 の支援施策 及び目標値	1 介護予防 や重度化防止 の取組の支援	〈1〉データを活用した地 域分析支援	2	1	1				○				<p>■ 市町村による介護予防や重度化防止の取組への支援はおおむね順調に実施された。引き続きデータ分析や人材養成研修の実施により市町村を支援していく必要がある。</p> <p>・ データを活用した地域分析支援では、地域分析に係る研修会を計画どおり実施した。第7期計画の進捗管理及び第8期計画策定に向けて、市町村がデータを活用し、PDCAサイクルを回していけるよう支援していく必要がある。</p> <p>・ 介護予防・重度化防止の支援では、通いの場づくりについて、人員体制やノウハウなどが不足している市町村に対して支援を行う必要がある。</p> <p>・ 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組支援では、要支援認定者数が計画を上回っていることから、引き続き介護予防・重度化防止に向けた市町村の取組を支援していく必要がある。</p> <p>■ 市町村職員を対象とした介護給付適正化に係る研修会は計画どおり順調に進捗した。</p>	
		〈2〉介護予防・重度化防 止の支援	2	1		1				○				
		〈3〉地域包括ケアシス テムの深化・推進に向けた 取組支援	4		3	1					○			
		中柱計	8	2	4	2	0	0	1	2	0	0		
	2 介護保険 給付適正化の 取組への支援	〈1〉介護保険給付適正化 の取組への支援	2	1	1				○					
		中柱計	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0		
	大柱計		10	3	5	2	0	0	2	2	0	0		
	合 計		274	105	140	25	3	1	7	26	1	0		